

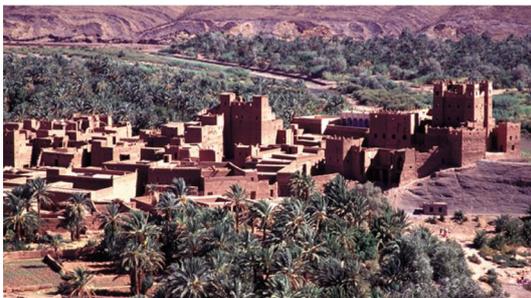
③ ひととは類似した自然環境においても異なる住まい方を選択する

伝統的な住居は、風土・歴史・習俗がその土地と一体となって発現する。しかし、自然環境は住まいの形に決定的な役割を果たすのではなく、単に可能性を提供する。決定権をもつのは土地でも気候でもなく、人間である（環境決定論ではなく、環境可能論）。
c.f. 和辻哲郎, 「風土—人間学的考察」, 1935 ⇨ インドネシアにおける住居の多様性（屋根のかたち、高床/地床）

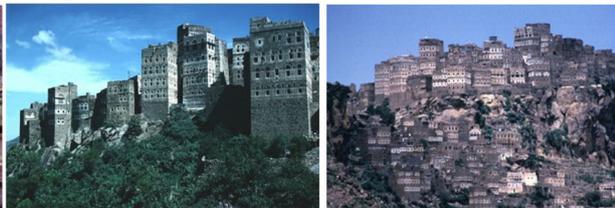


④ 住まいは生命と財産を守る装置である

住まいの根本は、危険な外界や厳しい気候から、生命と財産を守るシェルターである。防御の機能が特化すると、美しさが醸成される。



モロッコの要塞集落 (カスバ)



イエメンの要塞集落

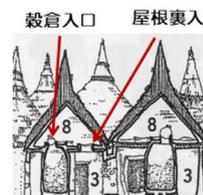
From what the fortified villages protect the inhabitants? Oikawa's Answer; "3E"
 1. **Enemies** 敵・他の社会集団
 2. **Environment** 厳しい自然環境, 日射や熱風, 砂嵐, 寒暖の差
 3. **Eyes** 他者の視線, イスラム社会では家族のプライバシーや女性の視線を回避 (⇒ 中庭型住居はまさにこの要求に合致)



カメルーンの典型的な住居



「コンパウンド」という住居形式



⑤ 住まいには設計理念がある、ときに、コスモロジーが住居をかたちづくる

住まいは象徴機能を持ち、民族や種族に共通のコスモロジー（世界観）が表徴される。空間のヒエラルキーやオリエンテーションが反映する（風水、占地術、家相など）。住居は文化現象であり、外界からのシェルターにとどまらず、物理的・実用主義的概念を超越する。



中国・客家の環状土楼（風水で形態決定）



バリ島の住棟配置 (3×3分割と、山の方向)

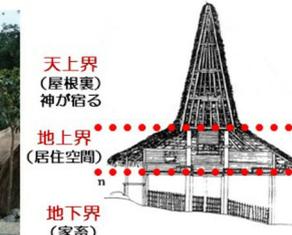


船底のように外部に迫り出す

女性（舳） 男性（船先）



スマタラ



天上界 (屋根裏) 神が宿る

地上界 (居住空間)

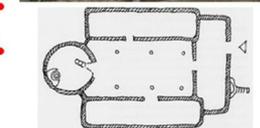
地下界 (家畜)



女性（舳） 男性（船先）

先祖がやってきた方向

サブ



船形の干千一 (インドネシア)



船形の干千一 (インドネシア)

⑥ 共同体を維持する装置と住まい方の仕組みがある

共同体固有のシンボルをもつ(集会所、コミュニティ施設など)。 共同体を維持するための住まい方の仕組みが、形になって共有される。



Haus Tambaran【精霊の家】Papua New Guinea

ヤムハウスPapua New Guinea

アフリカ・ドゴン族のモスク(左)とトグナ(集会所)

中国・客家の原状土楼：ひとつの家族は垂直方向に区割りされた4階の区画を占有。1階が厨房と食堂で、2階は米の貯蔵庫、3、4階が居室。楼の中の場所による有利、不利が生じるのを機力避け、家族間に格差を生じさせないための工夫。上下の移動は共用階段と走馬楼(廊下)を使用する。内部を各階別に区画化する扉は、社団をまとめる装置。

屋根の隅部に一族の幸せを祈願する5色の布を結びつけた「幸せの5色の旗(タル)

⑦ まちづくり・すまいづくりのヒントが隠されている

コンパクトシティ、街路空間と住居の構成、屋上利用、連結建築、...、様々な技法がみられる。



コンパクトシティとしてのイェメン・シバムのまち。屋上テラスの外壁には、女性が顔を見られずに街路を見おろすための小さな覗き窓があり、通風の役目に加えて、女性達が街路を見おろすためにある。他人の視線に晒されることなく、地上の往来や来客を確かめるための仕掛けである。また、隣家への秘密の空中ブリッジがあり、敵が攻めてきたときに避難路を確保するためであったが、現在は、女性達が他人の目に晒されずに、隣家と行き来し、コミュニケーションを図る装置となっている。

梅田スカイビル
連結超高層、避難時配慮

中東のイスラム都市は、西欧都市よりも長い都市文明の歴史を持つ。プライバシーの確保(通りから中庭が見えないこと、通り側の窓は人間よりも高くすることなど)や先行権(先に住んでいる人の権利)、ラクダと人間の大きさによる街路幅、イスラム都市の構成原理、広い道に街路樹という現代都市に対して、改築のような新しい街路と緑地は限定された中庭にのみ見られる。

メキシコ・トラコタルパンのボルチョ。「雁木」のように、民有地を通行可能。

黒石市「こみせ」の「雁木」

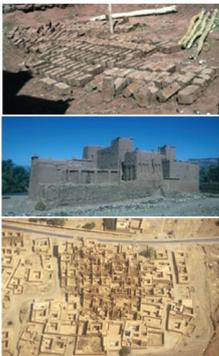
⑧ 環境に配慮した建築手法が用意されている

自然環境条件に対する独自の構想がみられる。風・光の調整装置(パッシブデザイン)。地場材料を用いて自然に返す。



バブアニューギニアの高床式住居

チリの石積み住居



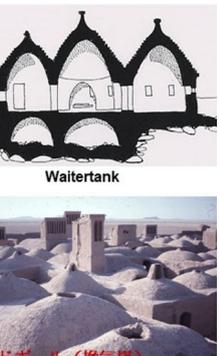
アドベ(日干し煉瓦)の広範な普及



トプライト(ニアス・インドネシア)



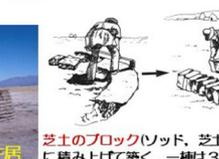
Waiterank



バードギール(換気塔)



南米・チバヤの住居



芝土のブロック(ソッド、芝土)を周囲から切り取り、そのまま地面から円錐形に積み上げて築く。一棟は3日でできるTPOハウスである。



芝土のブロック(ソッド、芝土)を周囲から切り取り、そのまま地面から円錐形に積み上げて築く。一棟は3日でできるTPOハウスである。



バードギール Wind tower Wind Catcher wind Tow



中庭型住居と換気塔 Water storage

⑨ 世界は中庭住居で満ちている

家屋 家屋 家屋 家屋
独立型住居位置 隙間

中庭 中庭 中庭 中庭
家屋 家屋 家屋 家屋
中庭型住居位置

マラケシュの中庭住居群 独立型と中庭型の比較(建蔽率80%)

中庭型住居が受け入れられた要因

中央アジアから西アジア、北アフリカにかけて、小さな農村集落から都市に至るまで広範に分布するのが中庭型住居(周囲を建物や塼などで囲われた中庭をもつ住居)である。中庭の開かれ型によって多様なヴァリエーションがみられるが、特に、中東やマグリブ地方などのメディナに密集する住居は、矩形の中庭を中心とした空間構成(口の字型住居)であり、イスラム都市における伝統的住居の典型となっている。

中庭型住居の本質は内に開いて外に閉じるということにある。中庭型住居の外観は非常に簡素で、逆に、中庭側には様々な意匠が凝らされる。中庭型住居の起源は古くは四大文明まで遡るが、古代ローマやヘレニズム期の都市住居にも顕著にみられ、アトリウムとペリスティールという基本型は、その後地中海地域に定着した。中東地域がイスラム化されてからも、中庭型住居が継承・展開された要因と特徴として、次の点があげられる。

1. 少雨乾燥・酷暑という気候条件に適していたこと。
2. 防衛の機能に適していたこと。
3. フライバシーの確保に適していたこと。
4. 中庭が機能的なフレキシビリティを有すること。
5. 眺望に配慮する点が可能で高層階居住に適していたこと。

c.f. 参考文献
■世界は中庭型住居で満ちている、及川清昭、「建築大百科事典」、朝倉書店
■住居、及川清昭、新イスラーム建築、並丸

⑩ 受け継がれた住居のデザインには力がある

デザインポキャブラリーの宝庫である。参照できるデザインが数多く存在する。



世界の伝統的住居・集落・都市を調査から都市と住まいの知恵をくみ取る

- ① 歴史的並みの美しさは、類似性の中の差異性にある。
- ② さまざまな場所が居住地として選択される。
- ③ ひととは類似した自然環境においても異なる住まい方を選択する。
- ④ 住まいは生命と財産を守る装置である。
- ⑤ 住まいには設計理念がある、ときに、コスモロジーが住居をかたちづくる。
- ⑥ 共同体を維持する装置と住まい方の仕組みがある。
- ⑦ まちづくり・すまいづくりのヒントが隠されている。
- ⑧ 環境に配慮した建築手法が用意されている。
- ⑨ 世界は中庭住居で満ちている。
- ⑩ 受け継がれたデザインには力がある。

人間は自然や社会、文化などが異なる多様な環境のもとで住生活を営んできたが、実際に世界各地の伝統的住居を踏査してみると、環境条件への対応の仕方も様々で、私たちの想像を絶するほどの構想力と表現力に満ち溢れている。このような伝統的住居は、残念ながら、近年の急激なグローバル化に伴って次第に失われつつあるが、そこには気候や地形などの環境条件を巧みに活用した独創的な住まい方が数多く見いだされ、自然環境との共生やエコロジカル・デザイン、サステナブル・デザインなどの面から、現代の居住計画にも十分に適用する英知に富んでいる。

伝統的な住まいのかたちは「環境配慮型デザインの宝庫」といえるもので、昨今、地球環境問題に対する関心が高まりつつある中で、再び注目を浴びつつある。世界の伝統的な居住文化を見つめなおすと、自分たちの現在の住まいと都市を再考する手掛かりを探ることができる。

ご清聴 ありがとうございます。